

第 194 回 日本材料学会 岩石力学部門委員会 議事録

日 時：平成 21 年 7 月 23 日（木）13：30～17：00

場 所： 京都大学 吉田キャンパス 土木工学教室本館 281 号室

出席者（敬称略）：朝倉俊弘（委員長），櫻井春輔（講演者），辻 健（講演者），石田 毅，大津宏康，岸田 潔，
木山英郎，菊地宏吉，小林昭一，佐々宏一，田中莊一，寺田道直，中井卓巳，水戸義忠，
村田澄彦，笹尾春夫（幹事）

1. 講 演

(1) 「熊野沖南海トラフで見つかった海洋性地殻内断層：

2004 年紀伊半島南東沖地震との関係」

京都大学 大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 地質工学分野

助教 辻 健 氏

(2) 「山岳トンネルの地震被害メカニズムと耐震性向上に関する研究」

京都大学 大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 教授 朝倉 俊弘 氏

(3) 「GPS による斜面のモニタリング —計測変位から安全率は求まるか？—」

(財)建設工学研究所 理事長 櫻井 春輔 氏

2. 委員会報告・学会よりの連絡事項

(0) 前回議事録の確認————— (資料 1 頁)

前回議事録の確認が行われ，承認された。

(1) 創立 60 周年記念研究集会について————— (資料 3 頁)

当委員会として何らかの協力をする事とする。小中学生向けに，子供たちが喜びそうなもの，水戸先生と幹事，委員長で決める。

例えば，めずらしい石の標本などを展示してはどうか。以前，別の行事で丹波篠山の隕石を展示したことがある。大英博物館から届いた隕鉄がどこかにある。

(2) 支部・部門合同懇談会開催報告————— (資料 4 頁)

朝倉委員長より報告があった。材料学会の新公益法人化へ向けてクリアすることが多い。例えば役員組織の見直しを行い，理事の数を減らし，代議員制度の導入を検討する。新公益法人化への対応を誤ると，最悪の場合，学会が法人格を失う恐れがある。

新公益法人へ移行すると部門委員会の一般公開を行う必要がある（公開に支障がある場合には学会へ申し出る）。当部門委員会も公開化を検討することとする。その場合，非会員からは参加費を徴収し，またホームページなどで開催日を公開する。

(3) 会誌「材料」特集号次回掲載年月決定について————— (資料 10 頁)

次回岩石力学特集号の発刊予定は23年3月である旨、幹事から説明があった。また、今回の特集号(21年3月)について期日内に9件の応募があり、特集号が成立した(成立条件8件以上)旨、幹事から報告があった。

(4)2009年度 岩の力学連合会賞選考委員会 委員推薦について----- (資料14頁)

現在清木委員が1期目2年目、笹尾委員が任期満了である。そのため笹尾委員に代わる新たな選考員を1名推薦することとする。新委員は委員長、幹事に一任することとする。

(5)資料作成費分担金について----- (資料15頁)

資料作成費分担金(1000円)について、趣旨を理解いただき、例年どおり払い込みいただくよう説明があった。

(6)第59期通常総会・学術講演会・各種併設行事に関する協力依頼について-- (資料16頁)

第59期通常総会・学術講演会は平成22年5月に北海道大学で開催される。次期もオーガナイズドセッションを開催することとする。テーマについては委員長、幹事に一任する。

(7)その他

岩の力学連合会、平成21年度第1回拡大常任理事会・専門幹事会について、田中委員(理事長)、石田委員(常任理事)から報告があった。

3. 部門委員会主催のセミナー開催について

セミナー開催について、次回までに骨格を準備して、次回部門委員会で具体的な議論を行うこととする。

・テーマについて

「技術継承」がテーマとなるのではないか。

岩盤力学、岩石力学について若い世代に伝えておきたいこと、

先輩が直接後輩に技術を伝承するような場がない。

大学以外の民間の委員にテーマをヒヤリングしてみる。

・開催場所について

会場費は京都が安くて良い。集客のポテンシャルは東京の方が高いが、会場費等は高くなる。

・その他

開催するときは企画事業委員会に計画書を提出する。

公益法人とのからみで収益を上げることが問題にならない?→問題無し

4. その他

今回は10月29日(木) 13:30~, 土木本館が耐震工事で使用できないため、京大会館または材料学会会議室で開催する。

5. 懇親会(17:15~)

カンファオーラで開催。15名参加。